

歴史総合、日本史探究

【I】 次の文章と、(A) (B) (C)に関する文章を読んで、設問に答えなさい。

日本の紙幣が2024年7月3日から変わった。

日本では1984年の紙幣から近代日本を象徴する文化人を紙幣の肖像として選んできた。2004年から20年に渡って日本を代表する近代思想家である(A) 福沢諭吉 (1万円札)、浪漫主義文学を代表する作家である樋口一葉 (5千円札)、伝染病を研究して功績をあげた野口英世 (1千円札) であった。しかし、今回、1万円札は日本の近代資本主義社会を築き、第一国立銀行などを設立した渋沢栄一が、5千円札は6歳のときに(B) 岩倉使節団に加わって渡米し、その後、津田塾大学を設立した津田梅子が、千円札は(C) ドイツに留学して細菌学に取り組んで血清療法を開発した北里柴三郎が選ばれた。

(A)に関する文章

日本を代表する近代思想家である福沢諭吉は、西洋思想を日本に取り入れるために「自由」「経済」「社会」などの和製漢語を造語していった。現在、高等教育を日本語で受けることができるのは福沢諭吉や、同様に和製漢語の造語を行った西周や中江兆民の功績である。

福沢諭吉は、時事新報を創刊し、慶應義塾を創設して、多くの著作を残した。また、①、②、清の従属下にあった朝鮮の独立を主張した金玉均を受け入れたりした。

(B)に関する文章

1869年に版籍奉還を終えて、国内の混乱を抑えた明治政府は、1871年に岩倉具視^③を全権特命大使に任命して幕末に条約を締結した各国へ派遣した。岩倉使節団は、太平洋を横断してアメリカのワシントンD.C.を訪問してグラント大統領に謁見した。その後はヨーロッパにわたって各国の元首に謁見して1873年に帰国した。^④

(C)に関する文章

サイエンス (science) はラテン語のscientia(知識)に由来する。現在の科学の分野は哲学 (philosophy) の一部として取り上げられてきた。しかし、17世紀に入ると科学は飛躍的に発展し始めた。さらに、19世紀^⑤に入ると科学の専門分化と職業化が進み、学会組織が整備され、「社会システム」の不可欠の一部となった。ドイツ帝国が成立すると、ドイツは徐々に軍事力、経済力を蓄えた。科学技術においても次第に存在感を示すようになり、優れた科学者を輩出した。北里柴三郎はこうした時期にベルリン大学へ留学した。

設 問

1. (A)に関する文章の下線部①に関連して、以下の文章は、福沢諭吉の著書の一節を抜粋したものである(なお、資料には、省略したり、あらためた箇所がある)。この著書における福沢諭吉の主張として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 1

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。されども今、広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるはなんぞや。その次第はなほだ明らかなり。『実語教』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり」とあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによりてできるものなり。(中略) 諺にいわく、「天は富貴を人に与えずして、これをその人の働きに与うるものなり」と。されば前にも言えるとおり、人は生まれながらにして貴賤・貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。

- ア. 国王は造物主である神によって統治権を与えられているから神聖不可侵であると主張している。
- イ. 開国以来海外貿易に依存しているので、外国の侵略を退けるためには海軍力を充実すべきであると主張している。
- ウ. 人は本来平等であるが学問により格差が生まれるので、学問を修めるように主張している。
- エ. 資本主義により経済が発展したが、労働者は資本家に搾取されているので、労働者が団結して資本主義社会を打破するように主張している。

2. (A)に関する文章の下線部②に関連して、朝鮮の金玉均は日本に遊学して福沢諭吉らと交流をし、帰国後、1884年に甲申事変を引き起こして、朝鮮の清からの独立を図ろうとした。甲申事変の前後のできごととして適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 2

- ア. 閔氏政権を支持した兵士や民衆が反乱を起こして、政府高官や日本公使館を襲撃した。
- イ. 日本は朝鮮と下関条約を締結して、公使館の護衛のために日本軍の駐留を認めさせた。
- ウ. 清は朝鮮と中朝商民水陸貿易章程を締結して、朝鮮は清の属邦であることを確認した。
- エ. 甲申事変に対応するため明治政府は小村寿太郎を清に派遣して、天津条約を結んだ。

3. (B)に関する文章の下線部③に関連して、明治政府が派遣した岩倉使節団の説明として適切でないものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 3

- ア. 大久保利通、伊藤博文、板垣退助らの政府首脳が派遣された。
- イ. 幕末に締結された不平等条約改正のための予備交渉を行おうとした。
- ウ. ウィーン万国博覧会を見学するなど、欧米の制度や文物を視察した。
- エ. 欧米からの制度や技術の導入を担う人材を養成するための外国人の雇い入れが活発になった。

4. (B)に関する文章の下線部④に関連して、岩倉使節団が謁見した国家元首として適切でないものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 4

ア. ヴィクトリア女王(イギリス)

イ. ナポレオン3世(フランス)

ウ. ヴィルヘルム1世(ドイツ)

エ. アレクサンドル2世(ロシア)

5. (C)に関する文章の下線部⑤に関連して、19世紀の科学における人物と業績の組み合わせとして適切でないものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 5

	人 物	業 績
ア.	ダーウィン	進化論の提唱
イ.	ラボアジエ	質量保存の法則の発見
ウ.	パストゥール	ワクチンによる予防接種の開発
エ.	レントゲン	X線の発見

【Ⅱ】 次の文章を読み、設問に答えなさい。

近世における産業や技術の発展の特徴は農書の出版、普及からも見て取ることができる。日本最古の農書といわれる『清良記』は、農業に関する記述があるものの、伊予宇和島郡の武将、土居清良の一代記であり、本格的な農書は元禄時代になって著された。元禄時代、農業の先進地帯となった畿内地方などでは、夫婦を中心とする家族労働からなる小農経営が一般的であった。そこでの労働は、主に人間の手作業とその延長である農具によってまかなわれ、これらの技術が農書によって全国に伝えられた。元禄時代の畿内において近世の農業技術は最高水準に到達するが、その後は目立つほどの改良もなく、明治時代の半ばまでいたるといわれている。

元禄時代は、商品流通の画期ともなった。江戸・大坂・京都を中心に、各地の城下町・港町を中継点として、幕藩制的市場と呼ばれる全国的な市場が確立した。これらの都市には幕府や諸藩の年貢米や産物である〔6〕のみでなく、一般商人の扱う米や特産品である〔7〕も集まり、18世紀になると〔6〕の量が〔7〕を越えるようになった。このような商業の発達にともない、貨幣や信用の制度が整備され、三貨の両替や秤量を行う〔8〕が全国に生まれた。有力な〔8〕のなかには巨大な富を築き、大名貸をおこなう者もあらわれた。また、主要な商品には専門の卸売市場が設けられ、問屋・仲買・小売という商人の分業も進んだ。しかし、この頃から米価に比べて諸物価が上昇し始め、幕府や諸藩は財政難に苦しむようになった。そのために諸藩も藩制改革をおこない、特産物の生産を奨励した。これらの特産物〔4〕の中には、土地の名産品として流通するようになったものも多い。

18世紀後半には農村社会が変容し、一部の有力百姓が村内の商品作物の生産や流通の中心となり、このような有力百姓は豪農と呼ばれる。19世紀に入ると、村々では都市商人の資金を背景に、商品作物の生産や加工、流通が組織されるようになっていった。大坂周辺や尾張の綿織物業は、分業にもとづく協業組織で手工業生産をおこなう〔9〕を生みだし、瀬戸内や関東でもその方向に進みはじめた。

こうした商業経済の拡大の背景として、各地の地域的市場と江戸や大坂を結ぶ新たな廻船業〔6〕が起こり、明治初期まで日本の流通を支えたことは重要であった。

設 問

1. 文中の□6～□9に入る語として適切なものを、それぞれ選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。

- | | | | | |
|----|--------|-----------|------------|-----------|
| □6 | ア. 蔵物 | イ. 俵物 | ウ. 貯米 | エ. 穀倉 |
| □7 | ア. 藩物 | イ. 便物 | ウ. 江戸荷 | エ. 納屋物 |
| □8 | ア. 本陣 | イ. 両替商 | ウ. 錢座 | エ. 十組問屋 |
| □9 | ア. 賃仕事 | イ. 家内制手工業 | ウ. 問屋制機械工業 | エ. 工場制手工業 |

2. 下線部①に関連して、元禄時代に著された本格的な農書として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。□10

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| ア. 会津農書 | イ. 農桑輯要 | ウ. 農業全書 | エ. 農業実験録 |
|---------|---------|---------|----------|

3. 下線部②に関連して、元禄時代に考案され、普及した農具として適切でないものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。□11

- | | | | |
|--------|--------|----------|-------|
| ア. 千歯扱 | イ. 備中鍬 | ウ. 足踏脱穀機 | エ. 踏車 |
|--------|--------|----------|-------|

4. 下線部③に関連して、ここでいう三貨として適切でないものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。□12

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ア. 金貨 | イ. 藩札 | ウ. 錢貨 | エ. 銀貨 |
|-------|-------|-------|-------|

5. 下線部④に関連して、元禄時代の特産物と土地の組み合わせとして適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 13

ア. 駿河のみかん イ. 最上のい草 ウ. 薩摩の酒 エ. 甲斐のぶどう

6. 下線部⑤に関連して、このような有力百姓である豪農についての説明として適切でないものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 14

ア. 地主手作をおこなう上層の農民であり、名主や庄屋などの役職をつとめて村を支配した。

イ. 地域の農政や民生を活性化するため、しばしば領主と対立した。

ウ. 手持ちの資金を困窮した中小零細農民に貸し付け、巨大地主へと成長するものが現れた。

エ. 零細農民や奉公人を使って生産活動を拡大し、富を蓄えていった。

7. 下線部⑥に関連して、江戸時代の海運についての説明として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 15

ア. 江戸時代に入ると東廻り海運、西廻り海運など新たな航路が整備され、全国的に物流が盛んになった。

イ. 廻船には「北前船」や「南蛮船」など、地域によって異なる種類があった。

ウ. 廻船問屋は自らが生産した商品を、独自に開発した市場に運搬することで莫大な利益を上げた。

エ. 廻船業には大量輸送から莫大な利益が期待されたが、船の遭難による損失も大きかったため、一部の豪商による投機的な運輸手段に止まった。

【Ⅲ】 古代の諸外国との関わりについて、以下の各問いに答えなさい。

1. 文中の [16] ～ [20] に入る語として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。

日本が海外の国と交渉を持ったことを確認できる史料は、1世紀に記された [16] が最初だが、それによると紀元前108年に朝鮮半島に置かれた [17] に定期的に使者を送っていたという。

朝鮮半島の諸国とも活発な交流があった。676年に [18] が朝鮮を統一した後も日本と朝鮮半島との関係は続き、東大寺の大仏造営に [18] の僧が関与した。また、698年に高句麗の遺民が中国東北部に建国した [19] は、日本海を横断して日本にたびたび使節を派遣した。これらの国との交渉は、8世紀の後半以後、貿易を中心としたものに変質するにいたった。

遣唐使は8世紀には20年に1回の頻度で派遣され、日本の思想や文化の発展に寄与した。717年の遣唐使の一員であった [20] は帰国後、聖武天皇に信頼され、政権の中核で活躍した。

- | | | | | |
|------|----------|--------|-----------|----------|
| [16] | ア. 漢書地理志 | | イ. 後漢書東夷伝 | |
| | ウ. 魏志倭人伝 | | エ. 宋書倭国伝 | |
| [17] | ア. 帯方郡 | イ. 楽浪郡 | ウ. 真番郡 | エ. 臨屯郡 |
| [18] | ア. 百済 | イ. 加耶 | ウ. 高麗 | エ. 新羅 |
| [19] | ア. 渤海 | イ. 靺鞨 | ウ. 契丹 | エ. 金 |
| [20] | ア. 吉備真備 | イ. 橘諸兄 | ウ. 藤原仲麻呂 | エ. 和気清麻呂 |

2. 邪馬台国の女王卑弥呼について中国の歴史書によって伝えられた説明として適切でないものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 21

- ア. 卑弥呼は呪術にすぐれ、宗教的権威を背景にして君臨したといわれている。
イ. 邪馬台国には大人・下戸などの身分秩序があり政治組織や租税の制度も整えつつあったといわれている。
ウ. 卑弥呼の死後は親族の男王が継承し、国内を掌握したと伝えられている。
エ. 邪馬台国の位置については近畿説と九州説があるが、仮に近畿説をとれば、3世紀にはすでに大和政権につながる政治連合が西日本を統一していたと見られることになる。

3. 遣隋使とともに中国に渡った留学生のうち、大化の改新後に国博士として活躍した人物として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 22

- ア. 南淵請安 イ. 犬上御田鍬 ウ. 高向玄理 エ. 小野篁

4. 阿倍仲麻呂と藤原清河が唐から帰国しようとして遣唐大使の船に乗ったときと同じ時に出発した遣唐副使の船で来朝し、日本に戒律を伝えた僧として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 23

- ア. 行基 イ. 良弁 ウ. 鑑真 エ. 観勒

5. 遣唐使の派遣中止を建言した人物として適切なものを，選択肢から1つ選び，その記号をマークしなさい。 24

ア．藤原時平 イ．菅原道真 ウ．源融 エ．橘逸勢

6. 遣唐使の派遣中止の理由として適切なものを，選択肢から1つ選び，その記号をマークしなさい。 25

ア．日本国内で次第に中国の文化に対する関心が低下していったから。
イ．唐内に内乱が相次いで，その国威は昔日のようではなくなり，外交政策上の意義も薄くなったから。
ウ．朝鮮半島との関係が悪化し，航海の安全が危ぶまれる状況になったから。
エ．平安時代に入ってから呉越国の商人が来航するようになり，莫大な費用を投入しなくても，大陸との接触を行うことができるようになったから。

（問題終わり）